

(第5回意識調査)

# 投資信託に対する意識調査

2010年1月

野村アセットマネジメント

□ 野村アセットマネジメント株式会社(執行役社長 吉川淳、東京都中央区日本橋一丁目12番1号)は、「投資信託に対する意識調査」を公表致しました。これは、弊社が2005年1月に公表した「団塊世代/シニア世代の投資信託に対する意識調査」から毎年実施している意識調査の第5回目になります。

## ■調査の目的

- 投資信託の保有者および現在非保有であるが保有意向がある者を対象に、投資信託等の保有実態や今後の保有意向、投資信託の満足度、2008年来の金融市場の動きによる投資活動の変化などを把握することに努める。

## ■調査結果の概要

- 「貯蓄から投資へ」についておよそ6割が見聞きしたことがあるとしている一方で、投資に対する必要性を聞いたところ、**6割近くが投資は必要ないとの意向**を示した。ただし「貯蓄から投資へ」に関する認識がある向きは、**投資の必要性を認めている傾向**がある。このことから、「貯蓄から投資へ」に対する理解をなお一層広めることが、投資に対する必要性を高めることにつながるものとみられる。
- **投資信託の投資家は、相場調整を経て、投資のリスクの大きさを認識しつつも、静観している様子**がうかがわれる。相場の急落により、投資を打ち切りたいとする向きよりも、投資のチャンスの好機だとする向きが男性を中心に多くみられた。また投資家の行動や投資信託に対する評価は、大きな変化はみられなかった。
- **投資信託に対するイメージは、相場調整を背景に変動するものという印象が強くなったが、分散投資に役立つものとして定着している。**また他の金融商品と比べても、長期投資に相応しいイメージが形成されており、**投信保有者には「投資信託といえば、『長期投資、分散投資』が浸透している。**
- 投資信託についてタイプ別に長期投資・短期売買に適しているものを聞くと、**リスクの大きいと感じているタイプのものについては短期売買向きとし、リスクの比較的低いタイプについては長期投資に適しているとの認識**が形成されている。
- **投資信託の購入意向**をみると、リスクが大きいとする「新興国株式型」に人気が集まる一方で、リスクが相対的に低いとする「バランス型」にも関心があり、**二極化しつつあるようにみられる。**
- **分配金に対するニーズは依然として高い。**分配金は**投資の安心感**を得る上で必要とし、解約せずに**長期保有の動機付け**にもなっている一方で、**過大なリスクを負ってしまうという意識**もみられた。
- **投資信託に対する満足度は、相場調整を背景に不満が大きい。**しかし総合的な満足度は、投資成果に対するものよりも高い。背景には、**投資信託を通じて資産運用が身近になったこと**に評価している様子であり、投資信託は資産運用において重要な役割を果たしているものとみられる。

## ■調査結果から得られた課題

- **投資信託における分配金の仕組みが十分に理解されていない点が課題**として挙げられる。分配金の仕組みを理解していないことから、投資信託に対する誤認がみられたり、リスクを過大に負ってしまうとする向きもみられる。その一方で、分配金による投資の安心感や運用状況の把握など、情報収集の手段としての役割を担っている。投資家に分配金の仕組みを正しく理解してもらうことを訴え続けていくことが必要である。

■ **調査目的** 投資信託の保有者および現在非保有であるが保有意向がある者を対象に、投資信託等の保有実態や今後の保有意向、投資信託の満足度、2008年来の金融市場の動きによる投資活動の変化などを把握することに努める。

■ **調査対象** 【事前調査】 事前調査に回答した25～69歳の男女から40,000サンプルを抽出  
 【本調査】 事前調査より投資信託の保有者、または現在非保有であるが、今後保有したい者を抽出  
 なお、本調査のサンプル割付は下表を参照

	30代		40代		50代		60代	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
保有者	173	173	173	173	173	173	173	173
非保有者	86	86	86	86	86	86	121	48

■ **調査地域** 全国

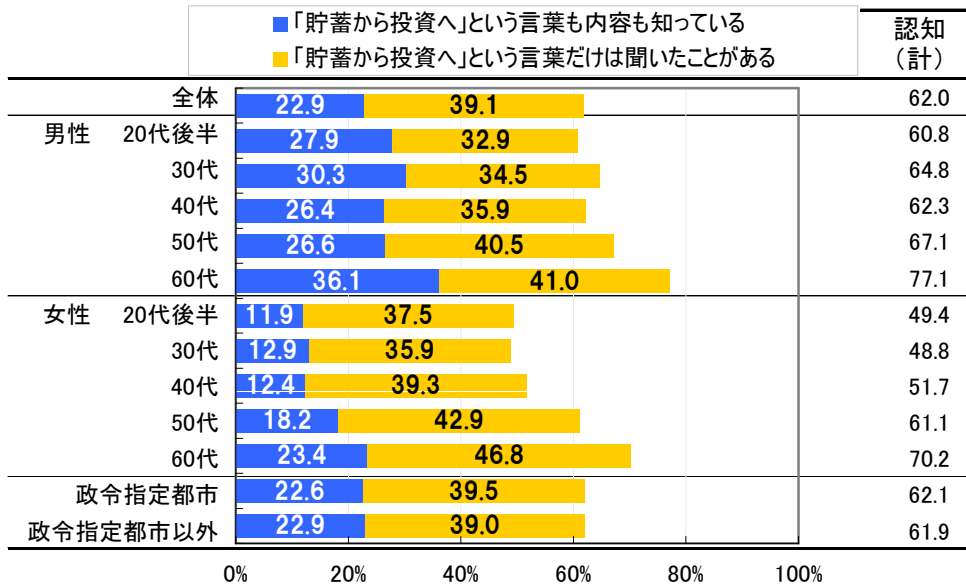
■ **調査方法** インターネットリサーチ（調査実施：株式会社マクロミル）

■ **調査時期** 【事前調査】2009年10月5日(月)～10月 8日(木)  
 【本調査】 2009年10月8日(木)～10月14日(土)

■ **有効回答数** 【事前調査】 40,000サンプルを抽出  
 【本調査】 2,069サンプル

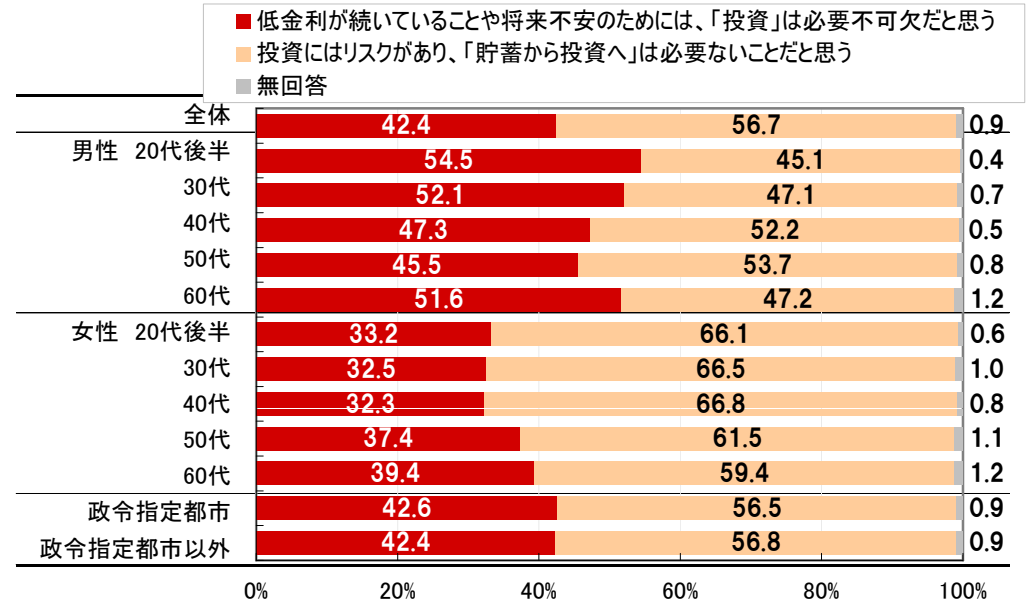
## 「貯蓄から投資へ」に関する認知状況

Q)「貯蓄から投資へ」という言葉を知っていますか。(事前調査; 全員が回答(n=40,000))



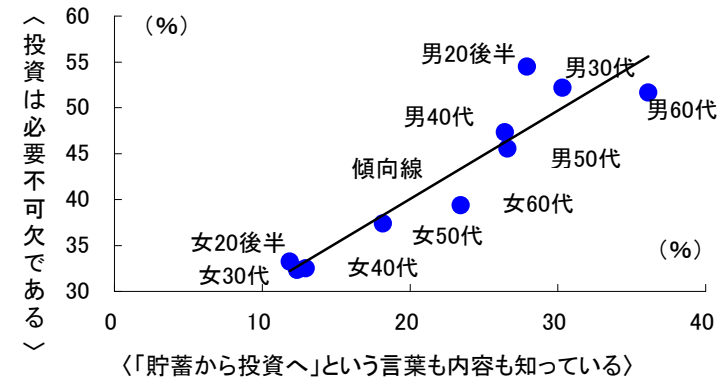
## 投資の必要性に関する意識

Q)「貯蓄から投資へ」という言葉を聞いた時、あなたが一番近いと感じるものはどれですか。(事前調査; 全員が回答(n=40,000))



- 「貯蓄から投資へ」について「言葉も内容も知っている」は全体の23%であり、「言葉だけは聞いたことがある」を含めると62%に達する。性別・年代でみると、男性が高く、男女とも60代が突出して高い。
- 「貯蓄から投資へ」を聞いた時に、「『投資』は必要不可欠だ」と思った者は42%。女性よりも男性において、「必要不可欠」と思っている者が多い。
- 「貯蓄から投資へ」に関する理解と「投資の必要性」に対する意識との関係を見ると、両者には結びつきがみられる。「貯蓄から投資へ」に関する理解を広げ、深めることが、証券投資にとって重要であることが改めて確認できたと言えよう。

「貯蓄から投資へ」の理解と投資の必要性との関係



# 家計資産状況(<1>年代別/投信保有・非保有)

## 家計金融資産構成

Q)あなたのお宅で保有されている金融資産はどのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。(本調査;全員が回答(n=2069))

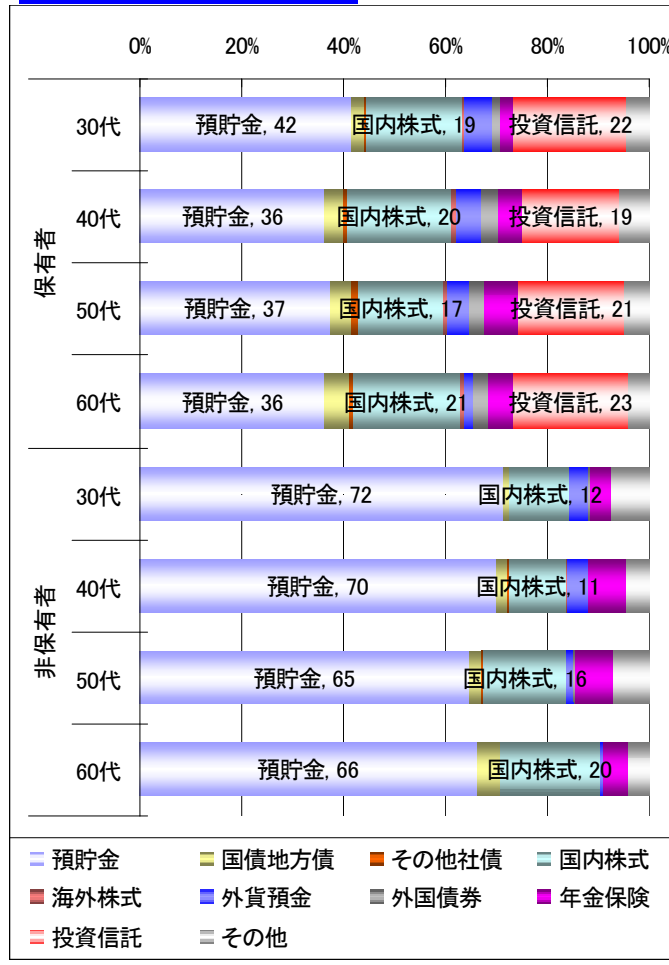
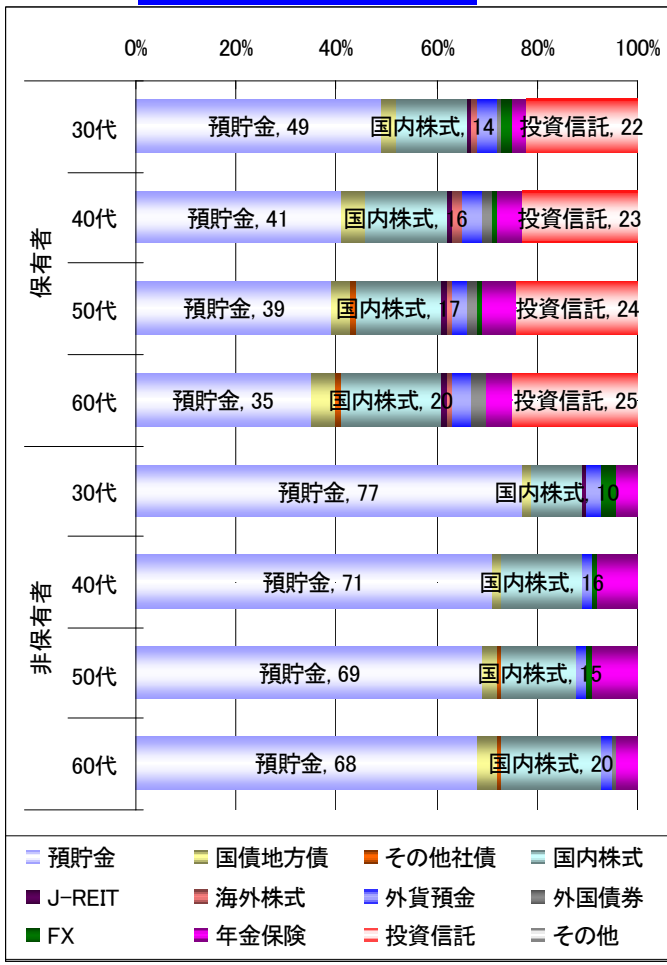
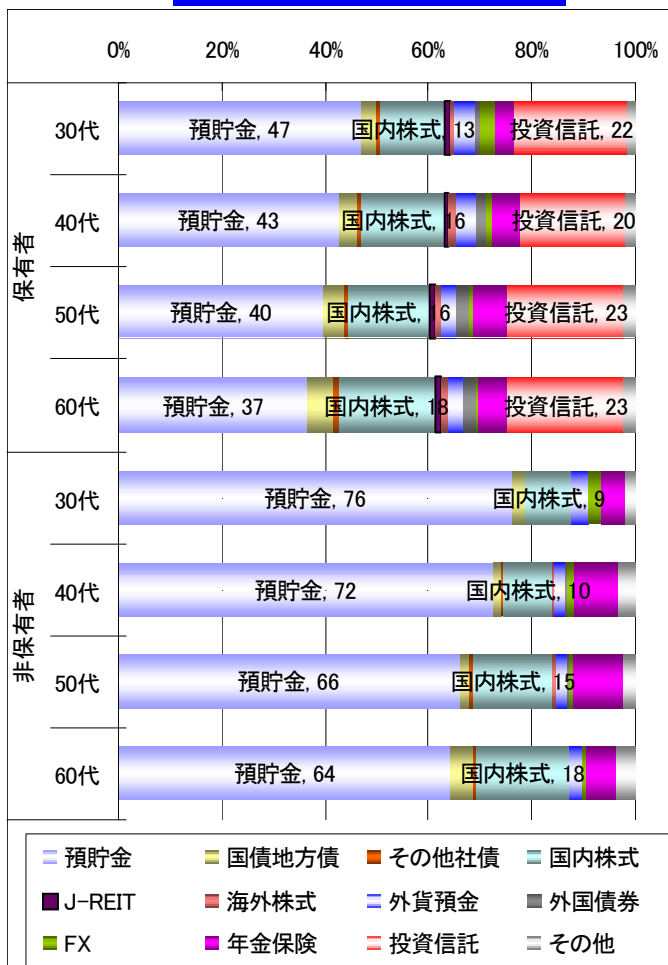
- 家計の金融資産構成をみると、投信保有者では資産が分散されている傾向にあるが、投信非保有者では「預貯金と株式」に偏っている傾向がある。また年代が上がると預貯金の比率が下がり、運用資産が増える傾向がみられるが、年代別に見て大きな差異はみられない。この特徴は過去との比較では概ね変わらない。
- 大幅な相場調整を経た後の今回の調査では、預貯金の比率が高まっているが、僅かなものに留まっており、年代でみる家計の資産状況に大きな変化はない模様。

今回調査(第5回:2009年実施)

参考(第4回:2008年実施)

参考(第3回:2007年実施)

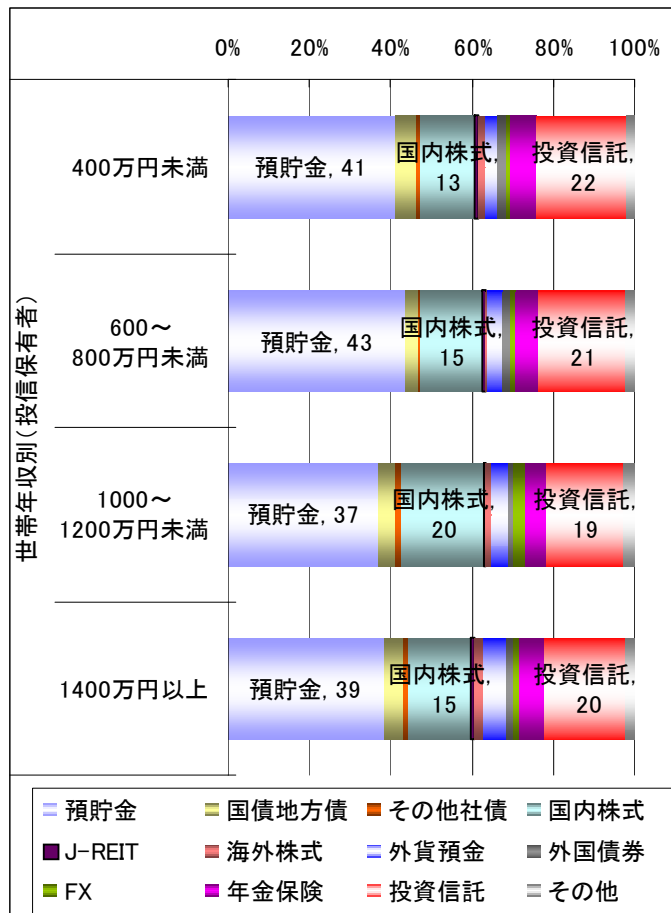
J-REIT/FXは調査対象にしていない点(以下同)に留意が必要



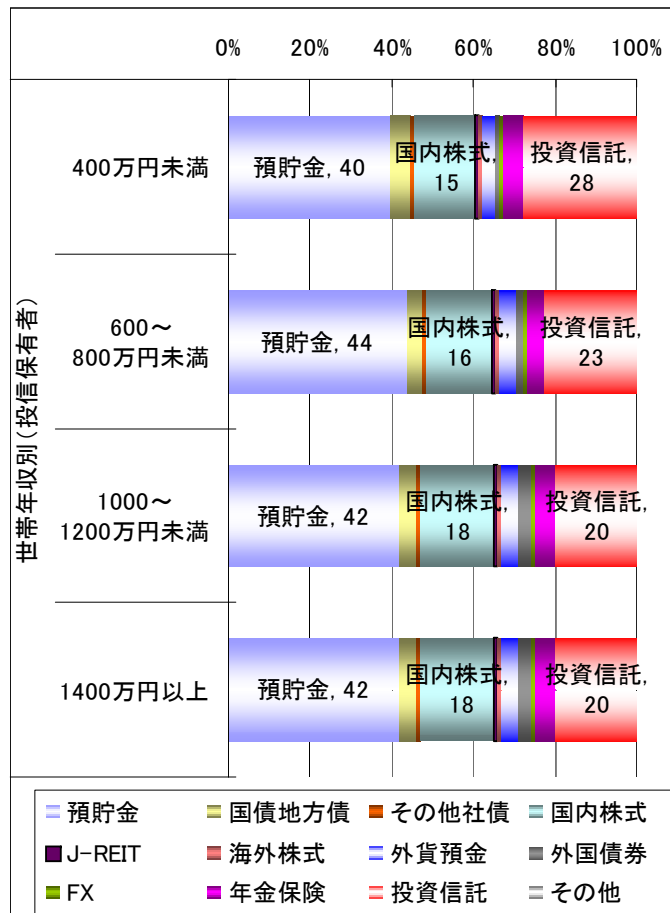
# 家計資産状況(<2>世帯年収別)

- 家計の金融資産構成について世帯年収別にみても(下図は抜粋)、年収の多寡によって資産構成に大きな差異はない。相対的にみて年収が低い世帯については、年金世帯である高齢層も含まれるが、投資信託を使って資産運用を実践している。この特徴も、過去との比較において大きな変化はみられない。
- その中で目立った変化ではないものの、過去では世帯年収が相対的に低い家計での投信構成比が高い傾向がみられたが、今回調査では平準化している。

今回調査(第5回:2009年実施)

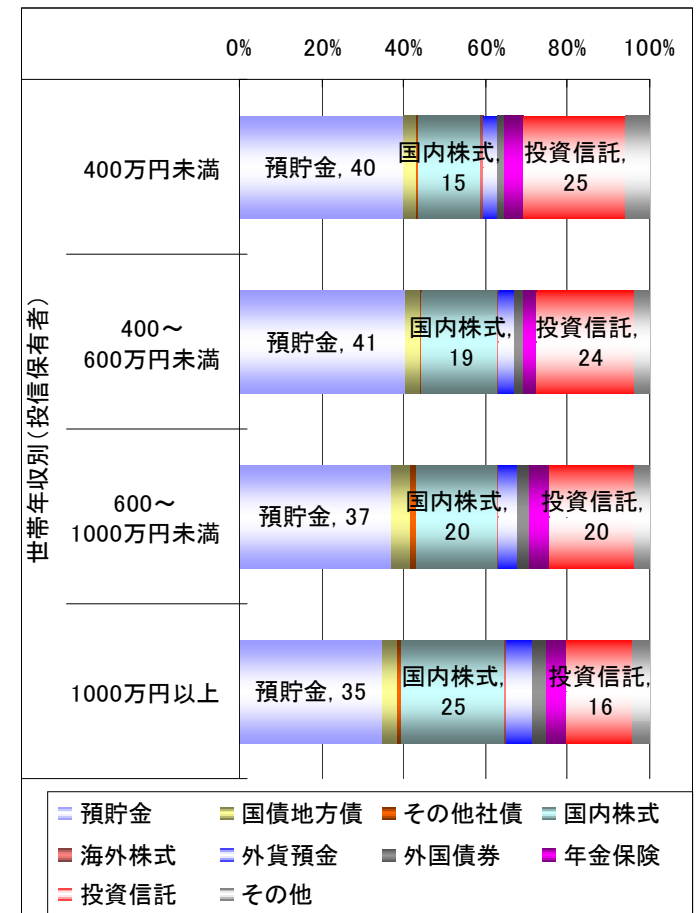


参考(第4回:2008年実施)



参考(第3回:2007年実施)

年収階級分けが違う点に留意が必要





# 家計資産状況(<3>資産総額別)

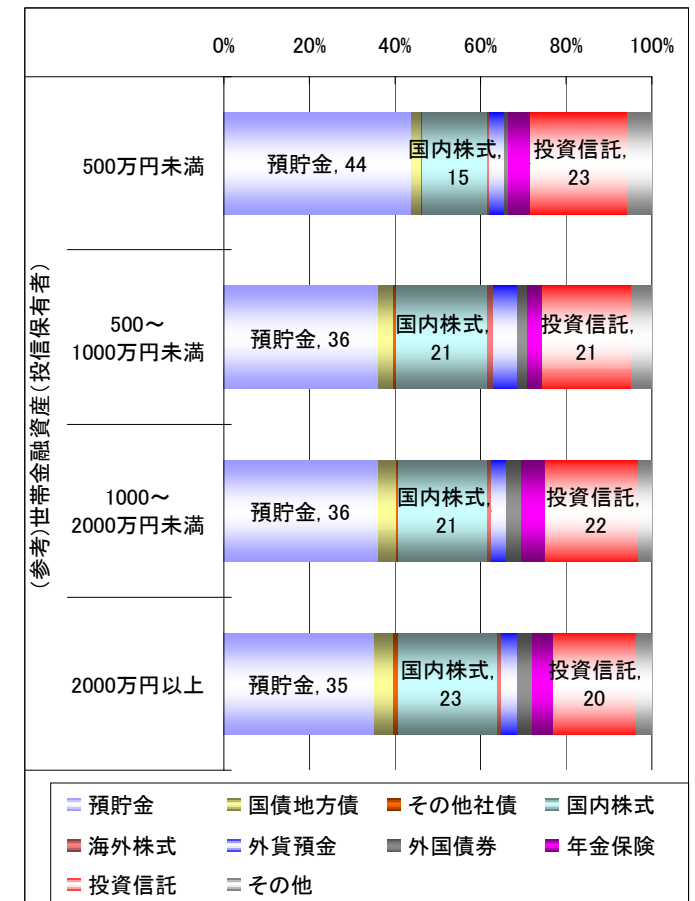
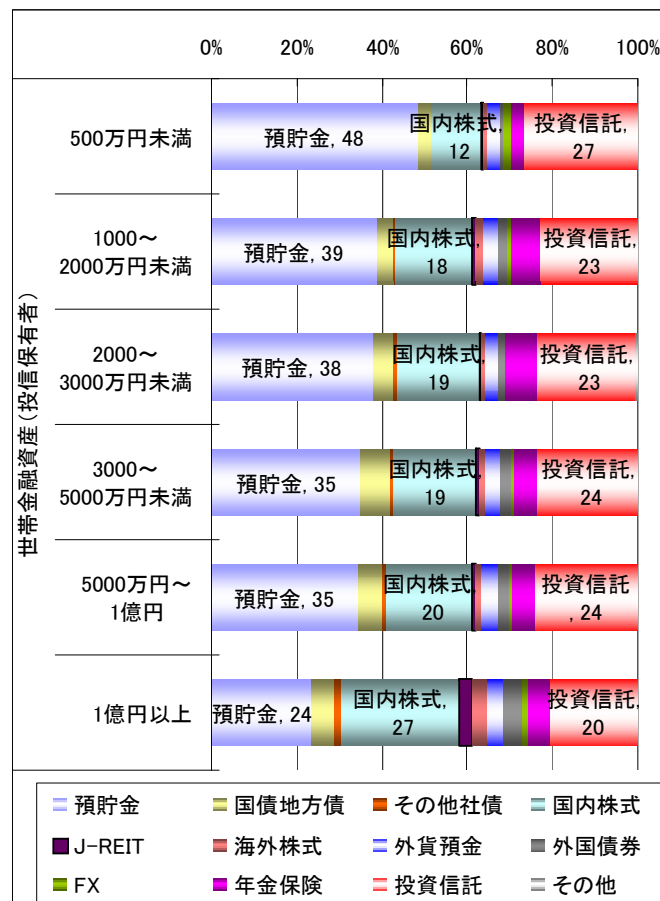
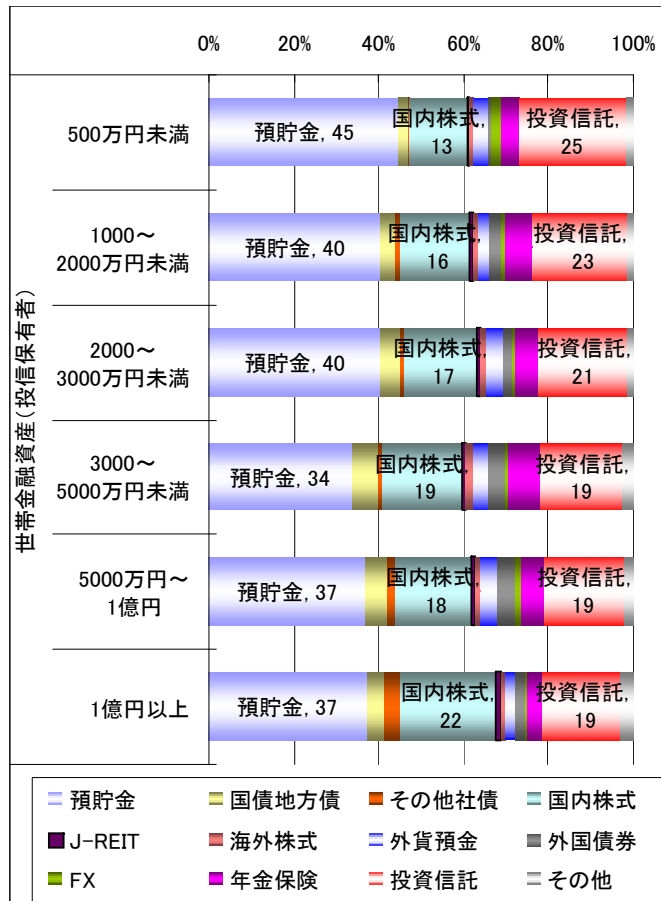
- 家計の金融資産構成について金融資産総額別にみると、資産残高が多額になるにつれて、預貯金の割合は低下し、運用資産の割合が上昇する傾向がみられる。ただし、投資信託の割合は低下する傾向がある。投資信託は、相対的に資産残高が低い世帯での資産運用に重要な役目を担っていると見えよう。
- この傾向は、過去との比較において、大きな変化はみられていない。ただし、前回調査からすると、預貯金の割合が僅かに増えており、相場調整を受けて安全志向が垣間みられる。

今回調査(第5回:2009年実施)

参考(第4回:2008年実施)

参考(第3回:2007年実施)

試算階級分けが違う点に留意が必要



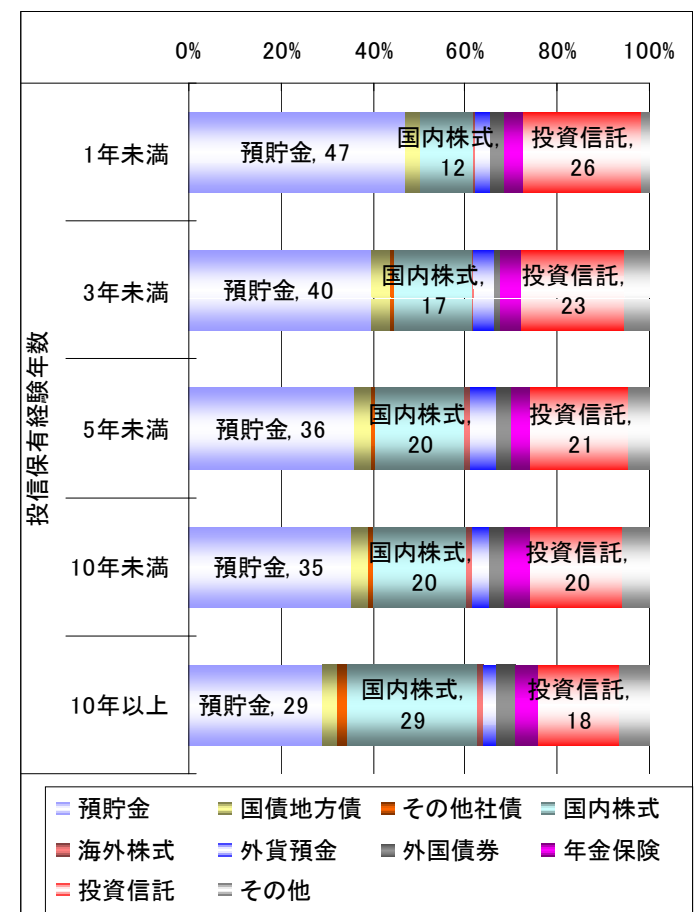
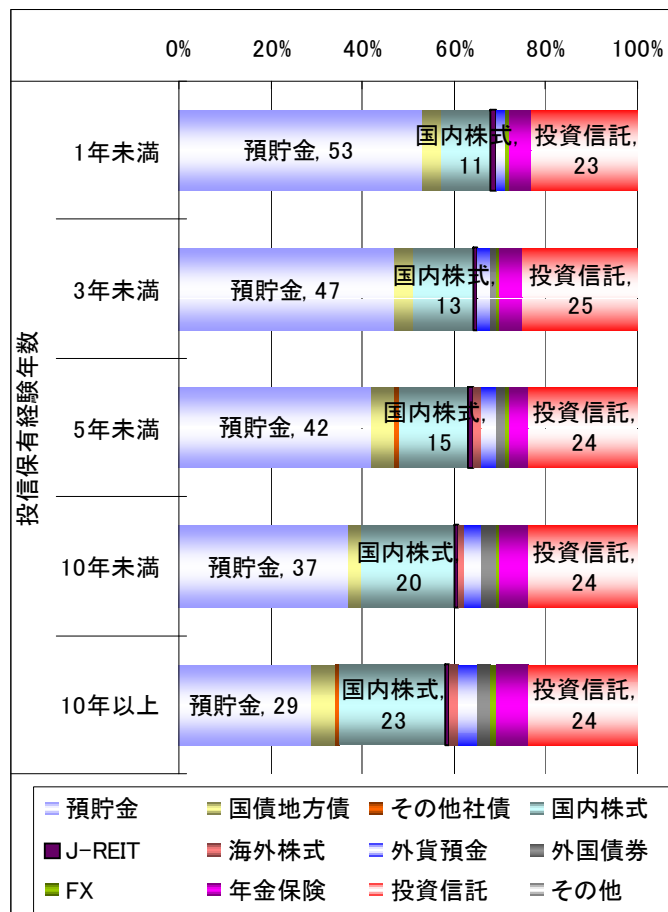
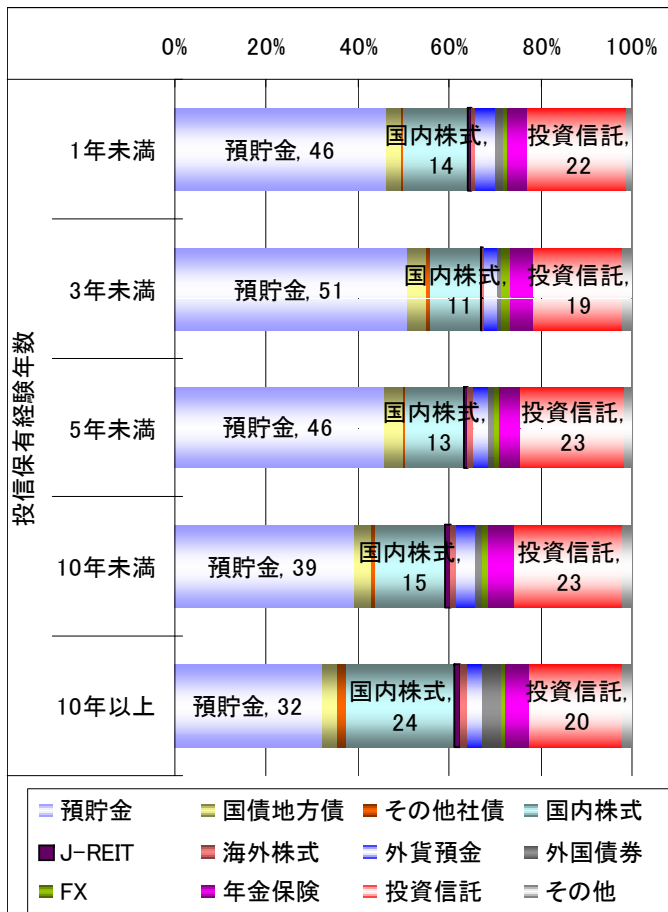
# 家計資産状況(<4>投信経験年数別)

- 家計の金融資産構成について大きな違いがみられる点は、投信経験年数別の資産構成にある。経験年数が3年未満の場合、預貯金が概ね半分を占める一方で、経験が10年にもなると、預貯金の比率は3割～4割程度にまで低下し運用資産の比率が上昇している。資産運用は、「経験がものを言う」ことを示しているものとみられる。
- 今回調査では前回と比較して、投信初心者層の資産構成において、国内株式の比率が高まっていることが特徴として挙げられる。

今回調査(第5回:2009年実施)

参考(第4回:2008年実施)

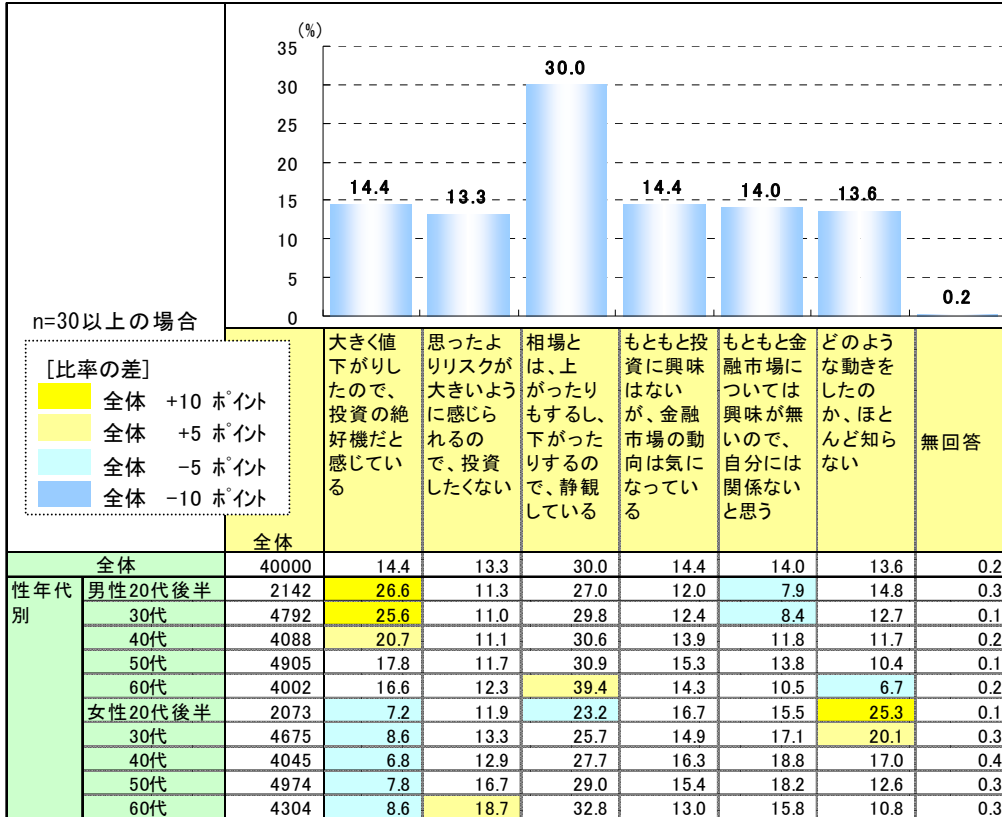
参考(第3回:2007年実施)





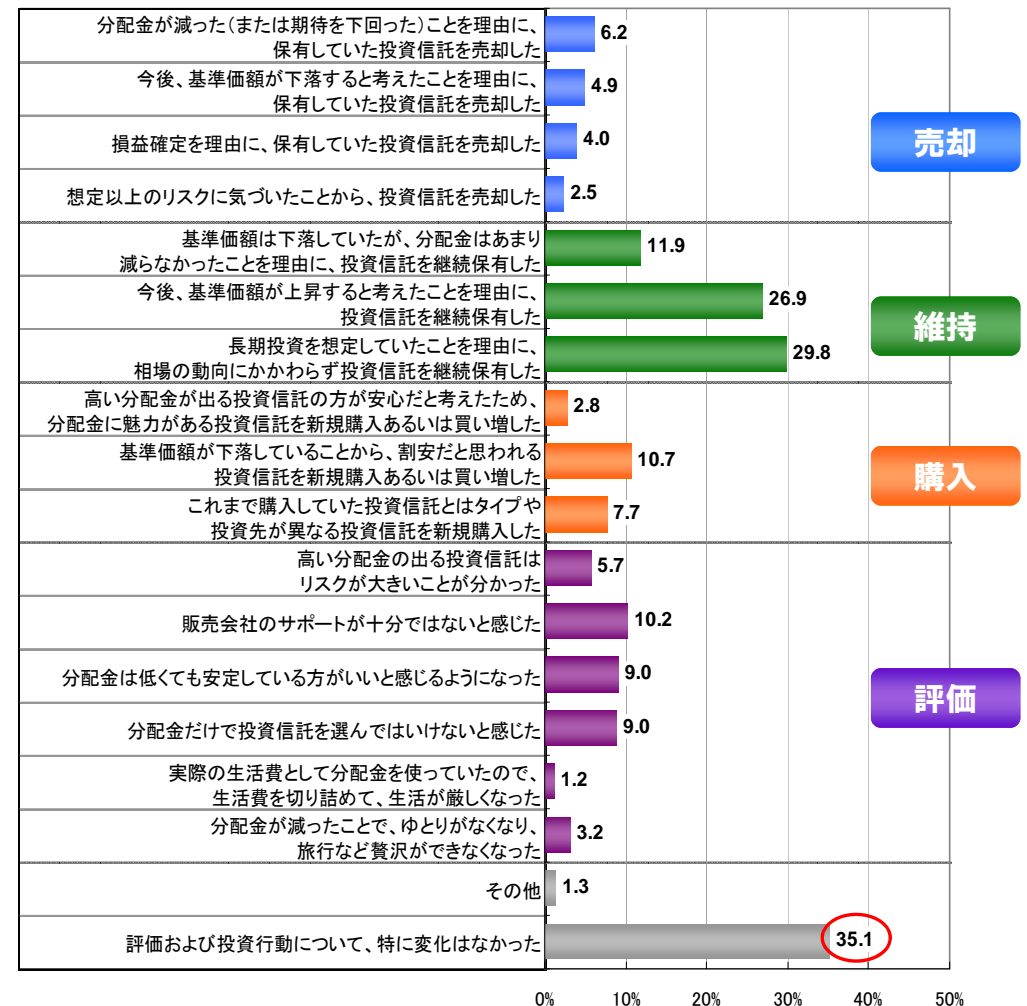
## 金融市場の動きによる意識の変化

Q)2008年来の金融市場の下落(急落)をみて、どのように感じられましたか。あなたのお気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。(事前調査;全員が回答(n=40,000))



## 金融市場の動きによる行動・評価の変化

Q)08年来の金融市場の下落時に、実際にどのように行動しましたか。また保有している投資信託に対する評価および投資行動はどのように変わりましたか。(本調査;保有者回答(n=1,384))

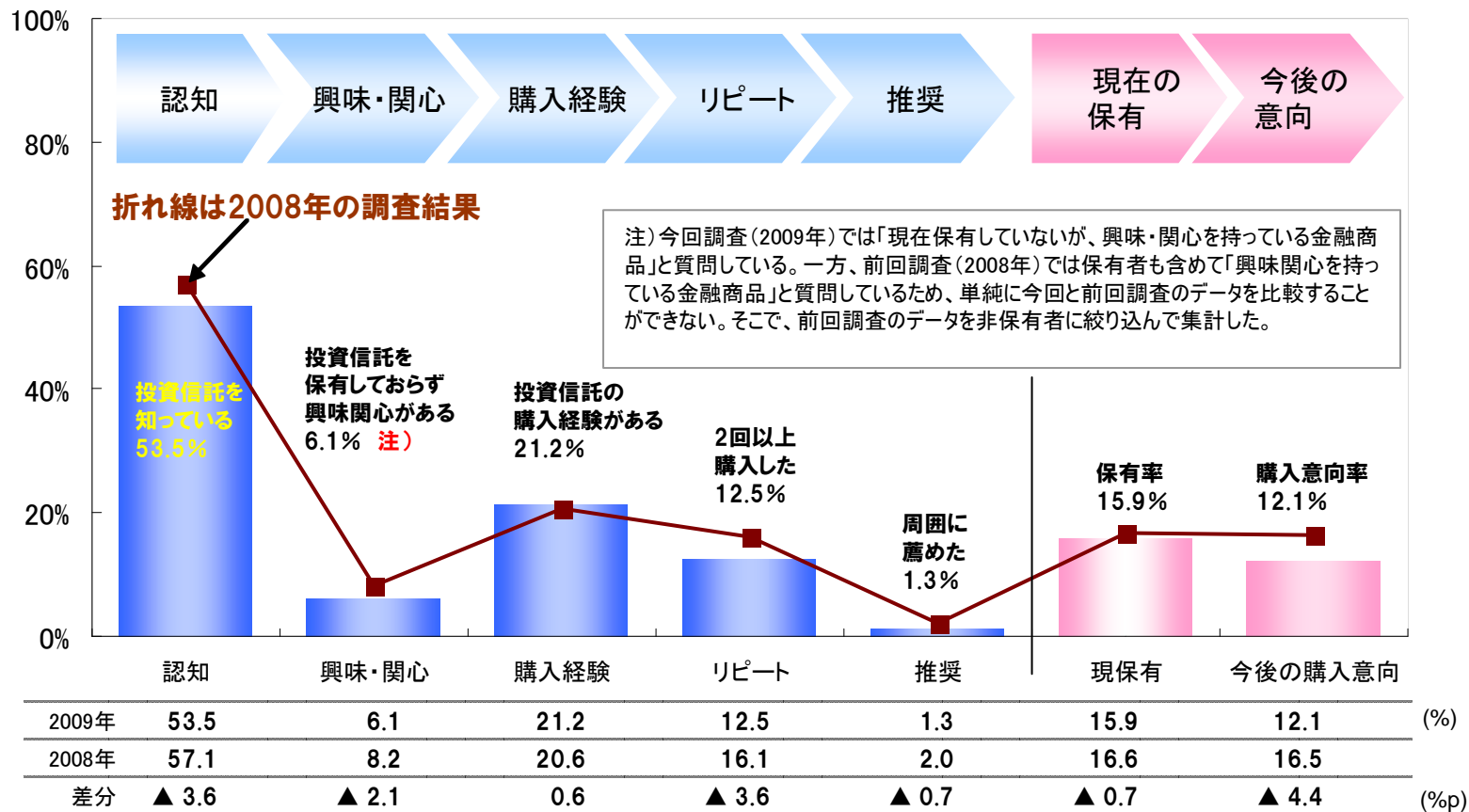


- 投資信託の保有者・非保有者も含めて、2008年来の金融市場の急落を受けた意識をみると、静観している向きが多いが、「好機」と捉える向きと「リスクが大きい」とする向きも概ね同じ割合があり、静観している向きについても、積極派と消極派が混在しているものとみられる。
- 2008年来の金融市場の動きによる行動や評価の変化については、意識と同様な結果となり、全体的に行動や評価の変化が小さい。

## 投資信託に対する認知から興味関心、購入、保有状況

(事前調査; 全員が回答(n=40,000))

- 消費者の行動を体系化すると、認知に始まり、興味・関心を抱き、実際に購入し、その後、続けて購入したり、他の方に勧めたりする一連の行動が想定される。それを投資信託にも当てはめ、投資信託の市場がどの過程まで進んでいるのかを、昨年と同様に調べてみた。
- 前回調査では、「購入経験」「保有率」「リピート率」「今後の購入意向」がほぼ等しいことから、投資信託の購入行動の特徴は、興味を持ちさえすれば、購入しやすく、保有し続け、リピーターにもなりえた。しかし今回の調査では、「認知」そのものが低下し、購入経験が増えることはなく、興味・関心、リピート率が薄らいでおり、一部のコア層により投信市場が形成されていることがわかる。また保有率は16%程度と前回と同様な水準となったが、今後の購入意向率は大きく下がった。改めて興味・関心を高め、リピート率が高まるような取り組みが必要のようだ。



## 保有のきっかけ

- 「手元にある資金を有効活用するため」が最も高い。なお、以下の結果を昨年と比較したところ、顕著な違いはみられない。
- 性年代別でみると、女性では「手元にある資金を有効活用するため」が高い。男性では「将来の生活」や「老後の資金のため」が比較的支持され、年代間に差がみられる。

## 金融商品のなかから投資信託を選んだ理由

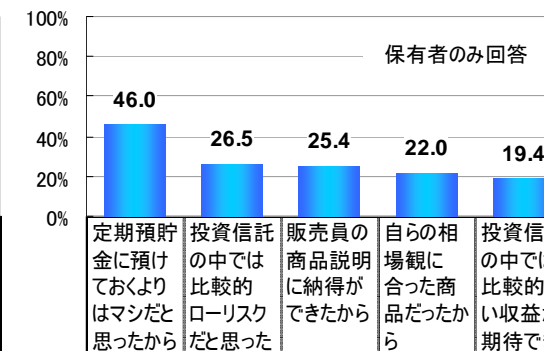
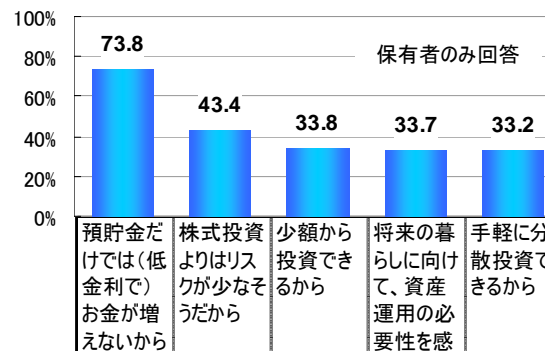
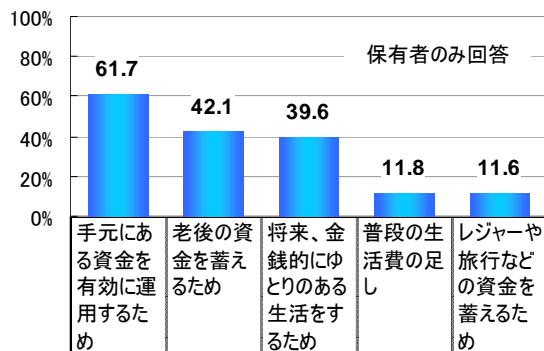
- 「預貯金だけではお金が増えないから」(74%)が最も高く、昨年の結果より6ポイントほど上昇している。
- 性年代別でみると、男女とも30代において「少額から投資できるから」が高い。一方60代では「株式投資よりはリスクが少なそうだから」が高い。

## 最終的に投資信託(商品)を選んだ決め手

- 「定期預貯金に預けておくよりはマシだと思ったから」(46%)が最も高く、女性の50・60代において高い。
- しかし、「定期預貯金に預けておくよりはマシだと思ったから」は、昨年より19ポイントほど低下している。一方、昨年より支持を伸ばしているのは、「雑誌、インターネットでの商品の評価が高かったから」(6% ⇒ 15%: 下図データ非掲載)。

それぞれ上位5項目まで掲出

n=30以上の場合



n=		保有者 全体	(1,384)	61.7	42.1	39.6	11.8	11.6
性年代	男性計	(692)	56.8	46.2	43.9	12.4	11.6	
	男性30代	(173)	62.4	34.7	49.7	16.2	15.0	
	男性40代	(173)	57.2	45.7	45.7	11.0	9.8	
	男性50代	(173)	55.5	49.7	42.2	13.9	10.4	
	男性60代	(173)	52.0	54.9	38.2	8.7	11.0	
	女性計	(692)	66.6	38.0	35.3	11.3	11.7	
	女性30代	(173)	70.5	24.3	33.5	9.2	9.8	
	女性40代	(173)	63.0	37.6	31.8	9.8	8.7	
	女性50代	(173)	67.6	43.4	37.0	12.7	15.0	
	女性60代	(173)	65.3	46.8	38.7	13.3	13.3	
保有者 全体(2008)		(1,336)	68.9	39.1	39.4	10.4	12.1	

n=		73.8	43.4	33.8	33.7	33.2
預貯金だけでは(低金利で)お金が増えないから	73.8	43.4	33.8	33.7	33.2	
株式投資よりはリスクが少なうだから	74.7	45.1	35.3	35.4	34.8	
少額から投資できるから	76.3	37.0	50.3	36.4	44.5	
将来の暮らしに向けて、資産運用の必要性を感じて	75.7	39.9	39.3	38.2	34.1	
手軽に分散投資できるから	72.8	45.1	26.6	28.3	28.3	
	74.0	58.4	24.9	38.7	32.4	
	73.0	41.8	32.4	31.9	31.5	
	78.0	38.2	49.7	30.1	31.8	
	70.5	38.7	32.4	26.0	27.2	
	75.7	44.5	27.7	38.2	32.4	
	67.6	45.7	19.7	33.5	34.7	
	68.0	43.0	-	27.0	-	

n=		46.0	26.5	25.4	22.0	19.4
定期預貯金に預けておくよりはマシだと思ったから	46.0	26.5	25.4	22.0	19.4	
投資信託の中では比較的ローリスクだと思ったから	41.5	25.4	17.9	31.1	22.1	
販売員の商品説明に納得ができたから	41.6	26.6	11.0	34.7	15.6	
自らの相場観に合った商品だったから	39.3	23.1	15.0	34.1	19.1	
投資信託の中では比較的高い収益が期待できると思ったから	37.0	27.7	17.3	28.3	26.0	
	48.0	24.3	28.3	27.2	27.7	
	50.4	27.6	32.9	12.9	16.6	
	42.8	28.9	24.9	15.0	8.1	
	45.1	26.6	29.5	17.9	17.9	
	56.6	23.7	37.0	5.8	16.2	
	57.2	31.2	40.5	12.7	24.3	
	64.7	22.1	-	-	-	

## 投資信託に対するイメージ

(本調査: 全員が回答 (n=2,069); 複数回答)

### ■ 投資信託に対する上位イメージ(今回と前回調査の比較)

2009年調査										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	世の中の動きに左右される	分散投資に役立つ	リスクが大きい	時々見直す必要がある	長期保有する	資産が殖やせる	利回りがよい	自分でできるもの	少額でも購入できる	魅力がある
	54.9%	50.7%	48.1%	40.3%	36.8%	34.9%	23.4%	21.9%	21.4%	21.0%

参考) 前回2008年調査										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	分散投資に役立つ	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	長期保有する	時々見直す必要がある	資産が殖やせる	利回りがよい	魅力がある	手軽に購入できる	少額でも購入できる
	42.7%	42.6%	35.3%	34.4%	33.8%	32.7%	24.2%	21.0%	17.6%	17.6%

### ■ 投資信託に対する下位イメージ(今回調査)

2009年調査										
下位	28位	27位	26位	25位	24位	23位	22位	21位	20位	19位
投資信託	誰もが持っている	短期で売買を繰り返す	理解できない	新しい	堅実	換金しやすい	安定している	商品内容が分かりやすい	若いときからやるもの	購入後の状況が分かりやすい
	0.8%	3.2%	4.2%	4.2%	4.2%	4.3%	4.5%	5.2%	8.2%	10.2%

### ■ 株式投資・外貨預金に対する上位イメージ(今回調査)

上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
株式投資	リスクが大きい	世の中の動きに左右される	資産が殖やせる	時々見直す必要がある	短期で売買を繰り返す	分散投資に役立つ	大きな資金が必要	魅力がある	リスクが分かりやすい	長期保有する
	79.8%	69.3%	39.2%	38.5%	34.7%	31.3%	30.6%	28.9%	25.8%	24.8%

上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
外貨預金	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	あてはまるものはない	利回りがよい	時々見直す必要がある	分散投資に役立つ	資産が殖やせる	リスクが分かりやすい	自分でできるもの	魅力がある
	53.2%	52.2%	31.9%	28.0%	26.2%	24.7%	20.2%	18.5%	17.6%	15.9%

- 投資信託を含めた金融商品に対するイメージを28項目から複数回答で選んで頂いたところ、投資信託に対するイメージは、前回と比べると「分散投資に役立つ」に替わり「世の中の動きに左右される」が1位となった。また、「時々見直す必要がある」の順位が上がり「長期保有する」が下がり、「魅力がある」が順位を下げ、「自分でできるもの」が浮上している。
- 昨年調査との比較でみると、各項目の回答率が高まり、投資信託に対するイメージが強まっていることがうかがわれる。投資環境の激変を反映して、価格変動リスク商品との認識が強まり、「見直す必要性」を感じているようだが、「長期保有」のイメージの比率は大きくは変わっていない。
- 一方、下位をみると「誰もが持っている」「短期売買を繰り返す」などが挙げられており、投資信託は「短期売買」のイメージは低い。また「理解できない」「新しい」といったイメージが低いことから、投資信託はある程度定着してきたとの見方もできよう。一方、「換金しやすい」「商品内容が分かりやすい」「購入後の状況が分かりやすい」などが相対的に低いところをみると、投資信託の魅力が十分に伝わっていないとも言えよう。
- 株式投資との比較で投資信託を相対的にみると、「リスク」そのものについては大きくはないものの、値動きが大きく、「分散投資に役立つ」金融商品であるとしている。また、投資信託は「長期保有する」「少額でも購入できる」とのイメージが形成されていると言える。
- また投資信託を外貨預金と比較すると、ともに値動きが大きいイメージがあるが、外貨預金の方が「リスクが大きい」としている。外貨預金は為替相場の変動に注目することで、「リスクが分かりやすい」としているが、投資信託は「長期保有」する商品であるとしているようだ。



## 投資信託に対するイメージ

(本調査: 全員が回答 (n=2,069); 複数回答)

### ■ 投資信託に対する上位イメージ(男性と女性/全員)

男性合計/全世代										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	分散投資に役立つ	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	長期保有する	時々見直す必要がある	資産が殖やせる	自分でできるもの	利回りがよい	手軽に購入できる	魅力がある
	52.4%	50.8%	43.2%	41.1%	40.5%	34.9%	25.7%	23.7%	23.7%	23.7%

女性合計/全世代										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	分散投資に役立つ	時々見直す必要がある	資産が殖やせる	長期保有する	利回りがよい	少額でも購入できる	魅力がある	手軽に購入できる
	59.3%	53.4%	48.8%	40.1%	35.0%	32.2%	23.0%	20.1%	18.1%	18.0%

- 男性および女性の投資信託に対するイメージの差をみると、男性は値動きやリスクがあるものの、分散投資を行い、長期に亘る投資の道具としてみているようだ。
- 女性にとっては、値動きがあり、リスクが大きいイメージが強いように見受けられる。また、投資信託のメリットと言える「少額投資」について一定の理解が得られている。
- 男性においても、自分でできて、手軽に購入できていることで、投資信託が身近な存在としてみられている様子がうかがわれる。

### ■ 投資信託に対する上位イメージ(保有者と意向者)

保有者合計										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	世の中の動きに左右される	分散投資に役立つ	リスクが大きい	時々見直す必要がある	長期保有する	資産が殖やせる	自分でできるもの	少額でも購入できる	手軽に購入できる	利回りがよい
	56.5%	56.4%	48.2%	45.7%	44.9%	34.3%	27.8%	26.7%	25.4%	22.3%

意向者(非保有)合計										
上位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
投資信託	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	分散投資に役立つ	資産が殖やせる	時々見直す必要がある	あてはまるものはない	利回りがよい	大きな資金が必要	長期保有する	魅力がある
	51.7%	48.0%	39.0%	36.2%	29.5%	25.7%	25.5%	24.1%	20.3%	19.3%

- 投資信託の保有者と意向者(非保有)とのイメージの違いをみると、上位に並ぶイメージは大きく違いはないが、意向者はその割合が低く、「あてはまるものがない」とする向きも多くあり、意向があっても、具体的なイメージを持っていないものとみられる。
- 長期保有に対するイメージが意向者の方は弱く、長期運用の意図が低いようだ。また大きな資金が必要とのイメージがあり、保有者の少額投資が可能とする点とのギャップがみられる。投資信託のメリットを伝えることで、意向者の購買意欲を高める余地がありそうだ。

## タイプ別投資信託に対するイメージ

(本調査; 投資信託保有者が回答(n=1,384);複数回答)

- 投資信託の保有者を対象に、タイプ別にみてイメージ別に選んで頂いたところ、「長期に持つなら、低リスクのファンドを。リスクの大きいファンドについては、短期間で売上の判断をする」傾向が読み取れる。すなわち、リスクが大きいとする「新興国中心の海外株式型」ファンドについては、短期売買に適しているとしている一方で、リスクに対して相対的に低いとみなしている「マネー型」「バランス型」ファンドについては、長期投資に適しているとしている。
- 新興国の株式は、確かにリスクは高いとみられるが、同地域の長期的な経済発展を踏まえれば、本来投資スタンスは中長期的であるべきだが、実際には短期的な視野で投資を判断しているようだ。

	新興国中心の海外株式型投資信託	先進国ハイイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	国内外のREIT(リート)型投資信託	先進国中心の海外株式型投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	マネー型投資信託(MMF, MRF)	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	バランス型投資信託	その他	特にな	わ
特にリスクが大きいと感じる投資信託	49.5%	27.6%	21.3%	16.7%	12.0%	11.6%	10.7%	4.2%	2.5%	2.4%	0.8%	4.8%	24.6%
長期投資に適していると感じる投資信託	29.9%	23.2%	21.6%	15.4%	14.5%	11.3%	8.2%	6.2%	5.6%	3.7%	0.3%	7.2%	25.6%
短期売買に適していると感じる投資信託	22.5%	8.8%	11.0%	9.9%	9.1%	6.3%	5.9%	4.6%	1.4%	1.4%	0.3%	15.1%	37.1%



# タイプ別投資信託の保有・意向状況

## タイプ別投資信託の保有・意向状況

(本調査:投資信託保有者が回答(n=1,384);複数回答)

- 投資信託の保有者を対象に、タイプ別に保有状況、今後の意向をうかがっている。現状の保有状況は、先進国の海外債券型ファンド、次いで国内株式型ファンドが続いている。ここ数年注目されている「新興国中心の株式や債券」は1割程度、「リート」「ハイールド」ファンドは5%程度となっている。一方、バランス型ファンドの保有比率は、それらよりも高く、投資信託のコア商品の位置づけにされている。
- 今後の意向についてみると、「買い増ししたい」「新規購入」を検討しているファンドとして「新興国中心の海外株式型」ファンドに注目が集まっている。また保有額を減らしたいとしているものは、国内株式型ファンドとなっているが、その比率は低い。今後の意向(購入および売却)については「特にない」が大勢を占めており、現状維持とする向きが多い。多くの個人投資家は、様子見の姿勢にあるものと言える。

保有している投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	バランス型投資信託	先進国中心の海外株式型投資信託	新興国中心の海外株式型投資信託	国内外のREIT(リート)型投資信託	先進国ハイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	マネー型投資信託(MMF, MRF)	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	その他	わからない	
n=1384	21.9%	20.3%	17.1%	11.0%	7.1%	4.2%	3.9%	1.8%	0.9%	0.1%	9.9%	1.8%	
今後、買い増ししたい投資信託	新興国中心の海外株式型投資信託	マネー型投資信託(MMF, MRF)	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	バランス型投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	先進国ハイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	先進国中心の海外株式型投資信託	国内外のREIT(リート)型投資信託	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	その他	特にない	わからない
	12.8%	10.5%	9.9%	9.6%	6.7%	4.3%	5.0%	4.1%	1.8%	1.5%	0.7%	47.1%	10.5%
今後、保有額を減らしていきたい投資信託	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	国内外のREIT(リート)型投資信託	バランス型投資信託	新興国中心の海外株式型投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	先進国中心の海外株式型投資信託	マネー型投資信託(MMF, MRF)	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	先進国ハイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	その他	特にない	わからない
	8.9%	5.3%	4.6%	3.0%	3.3%	2.9%	2.7%	1.6%	1.6%	0.7%	0.8%	59.9%	13.3%
今後、新規に購入したい金融商品	新興国中心の海外株式型投資信託	バランス型投資信託	国内外のREIT(リート)型投資信託	先進国ハイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	先進国中心の海外株式型投資信託	マネー型投資信託(MMF, MRF)	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	その他	特にない	わからない
	8.9%	5.8%	4.8%	3.8%	3.5%	3.4%	3.1%	3.0%	1.7%	2.4%	1.4%	56.5%	15.6%

## タイプ別投資信託の保有・意向状況

(本調査: 投資信託保有者が回答(n=1,384);複数回答)

- 現在保有している投資信託のタイプ別に、他のタイプの買い増しおよび新規購入意向率を分析した。
- 例えば、「バランス型」の投資信託を保有している者のうち、今後「バランス型」を新規および追加購入したい者は8.8%で高く、次いで「新興国中心の海外株式型」が8.3%と続いている。
- なお、各タイプ別に共通している点は、「特にない」が一番多く、追加購入自体の意欲が大きいとは言いがたい。
- 各タイプ別にみると、選んだ商品のうち、大半がリスクが大きいとイメージしている「新興国中心海外株式型」を選択しており、昨今の新興国人気が表示されているが、その一方で相対的にリスクが小さいとされている「バランス型」に対しても購入意向があり、投資信託に求めるニーズが二極化していることを示唆している。

特にリスク  
が大きい

投資のイメージ

(小さい)

(%)

特にリスク  
が大きい

投資のイメージ

(小さい)

現在保有している投資信託	全体(本数)	【今後、新規に購入したい金融商品】+【今後、買い増したい金融商品】												
		新興国中心の海外株式型投資信託	先進国ハイイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	国内外のREIT(リート)型投資信託	先進国中心の海外株式型投資信託	先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	国内株式型投資信託(国内株式に投資する投資信託)	通貨選択型投資信託(各種資産を対象とした投資信託)	マネー型投資信託(MMF, MRF)	国内債券型投資信託(国内債券に投資する投資信託)	バランス型投資信託	その他	特にない	わからない
新興国中心の海外株式型投資信託	190	21.6	5.9	3.5	2.8	3.1	3.7	2.4	4.1	1.1	4.6	1.1	38.0	8.1
先進国ハイイールド・新興国中心の海外債券型投資信託	104	10.9	6.2	4.1	2.6	6.2	2.1	3.1	2.1	0.5	5.7	0.5	38.3	17.6
国内外のREIT(リート)型投資信託	111	12.6	6.6	8.3	4.7	6.0	5.3	1.7	3.0	1.0	7.6	1.0	32.9	9.3
先進国中心の海外株式型投資信託	293	10.1	4.8	2.6	4.3	4.8	4.9	2.3	3.4	1.2	6.5	0.1	45.1	9.9
先進国ソブリン中心の海外債券型投資信託	583	8.0	3.6	3.4	3.6	7.1	4.8	1.6	4.9	1.9	6.1	0.8	42.0	12.5
国内株式型投資信託	542	11.7	3.9	4.6	4.9	6.4	10.1	2.2	6.7	2.6	5.4	1.2	31.5	8.7
通貨選択型投資信託	25	14.3	7.1	3.6	0.0	3.6	1.8	0.0	5.4	1.8	7.1	0.0	41.1	14.3
マネー型投資信託(MMF, MRF)	48	5.1	2.5	3.4	5.1	3.4	4.2	0.0	23.7	2.5	6.8	0.8	33.9	8.5
国内債券型投資信託	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
バランス型投資信託	456	8.3	4.0	4.0	4.3	4.4	5.1	1.8	4.3	1.5	8.8	0.7	41.9	11.1
その他	264	9.9	4.0	4.9	3.0	3.4	6.4	2.7	5.3	1.2	6.7	2.2	41.7	8.7
わからない	48	3.7	0.9	1.9	0.9	0.0	2.8	0.9	4.7	1.9	6.5	0.9	57.9	16.8

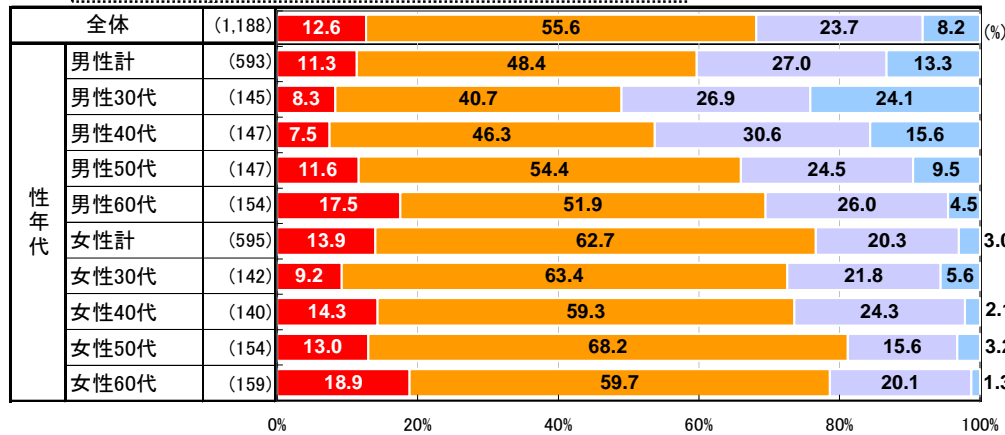
# 分配金のニーズ・受給・用途

## 分配金のニーズ

(本調査:投資信託保有者/  
分配金をもらっている者が回  
答(n=1,188))

- 分配金のニーズについては、「分配金のお知らせ」まで含めると、約9割を占める。
- 分配金通知は、運用状況を知る情報ツールとしても定着していることがうかがわれる。
- 性年代別で見ると、特に男性では年代間の差が大きく、30代では75%まで落ちこむ。
- 一方、女性は男性よりも分配金のニーズが高いが、年代における差はみられない。

Q分配金は必要ですか。それともいりませんか。(単一回答)



- 使うために必要だ
- 利益確定のために必要だ
- 分配金自体は必要ないが分配金のお知らせ(決算通知)は運用状況を知る上で必要だ
- 分配金は必要ない

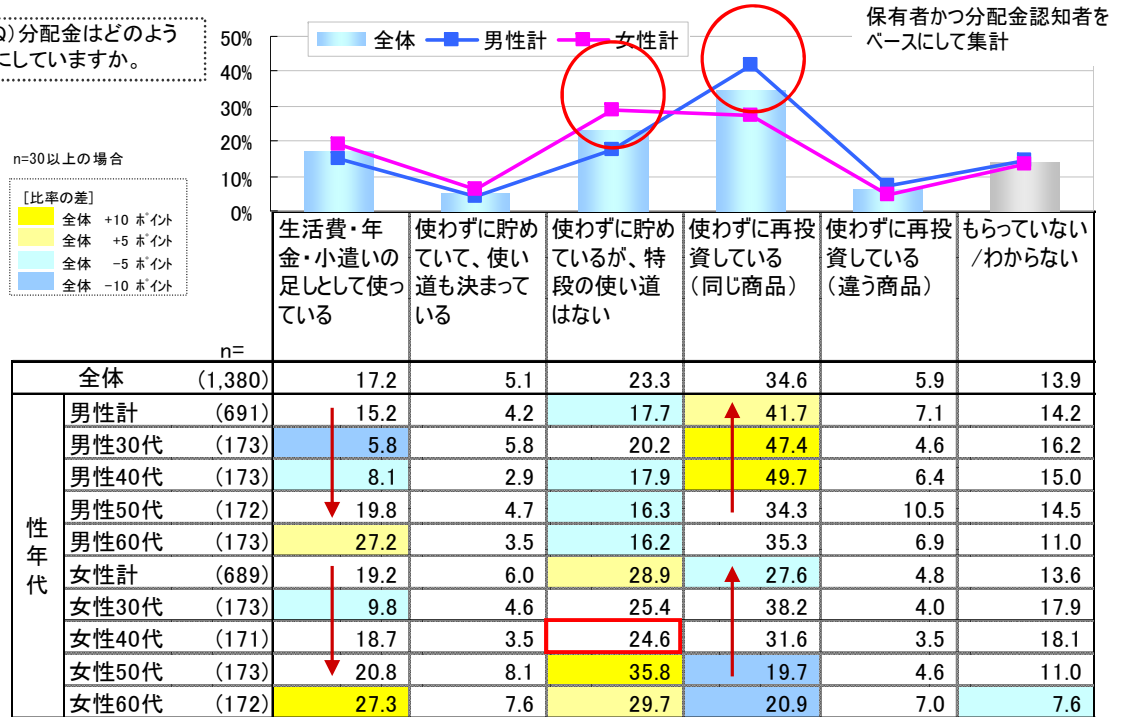
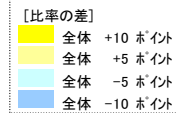
## 分配金の受給・用途

(本調査:投資信託保有者/  
分配金をもらっている者が回答  
(n=1,380))

- 分配金をもらっている者は86%である。
- その用途をみると、「使わずに再投資している(同じ商品)」(35%)が最も高く、特に男性30・40代では約半数を占める。
- 一方、女性では「使わずに貯めているが、特段の使い道はない」(29%)が最も高く、特に女性50代で高い(36%)。
- 職業で見ると、有職者では「使わずに再投資している(同じ商品)」が最も高く、専業主婦では「使わずに貯めているが、特段の使い道はない」が最も高い(図にはデータ不掲載)。
- また、「生活費・年金・小遣いの足しとして使っている」は第3位の用途となっているが、男女とも年代が上がるにつれて高くなっている。職業で見ると、学生・パートにおいて比較的高い。
- その反面、「使わずに再投資している(同じ商品)」は男女とも50・60代で低くなっており、性年代や職業によって分配金の用途が大きく異なることが推察される。

Q)分配金はどのように使っていますか。

n=30以上の場合



# 分配金に対する理解度

- 分配金と基準価額の関係について理解度を調べると、保有者で6割程度の理解に留まっている(前回調査では63%と大きな変化はない)。保有者でも女性についてみると、半数弱が理解していない。
- 分配金に対する理解度では、「分配金は運用会社の利益からもらえる」とする向きが1割程度。僅かだが、保有者の方が非保有者よりも高い回答率となっている。

## 分配金に対する理解度

Q) 投資信託に関する説明について、あなたが「その通りだと思う」ものをお答えください。

## 分配金と基準価額との関係

Q) 分配金が出ることで、基準価額がその分下がることについてご存知ですか。

※: 分配金認知者ベース

		n=	(%)	
全体		(2,028)	51.1	48.9
保有者 全体		(1,380)	63.4	36.6
性 年 代 別	男性計	(691)	71.5	28.5
	男性 30代	(173)	68.8	31.2
	男性 40代	(173)	70.5	29.5
	男性 50代	(172)	72.1	27.9
	男性 60代	(173)	74.6	25.4
	女性計	(689)	55.3	44.7
	女性 30代	(173)	49.7	50.3
	女性 40代	(171)	48.5	51.5
	女性 50代	(173)	60.1	39.9
	女性 60代	(172)	62.8	37.2
職 業 別	有職者	(781)	65.3	34.7
	専業主婦	(293)	58.4	41.6
	パート・アルバイト	(114)	57.0	43.0
	その他	(192)	67.2	32.8
非保有者 全体		(648)	24.8	75.2
性 年 代 別	男性計	(355)	30.4	69.6
	男性 30代	(85)	29.4	70.6
	男性 40代	(80)	30.0	70.0
	男性 50代	(78)	23.1	76.9
	男性 60代	(112)	36.6	63.4
	女性計	(293)	18.1	81.9
	女性 30代	(83)	14.5	85.5
	女性 40代	(84)	11.9	88.1
	女性 50代	(81)	21.0	79.0
	女性 60代	(45)	31.1	68.9
職 業 別	有職者	(363)	25.3	74.7
	専業主婦	(125)	17.6	82.4
	パート・アルバイト	(71)	21.1	78.9
	その他	(89)	36.0	64.0

■ 知っている  
□ 知らない

n=30以上の場合

[比率の差]  
■ 全体 +10ポイント  
■ 全体 +5ポイント  
■ 全体 -5ポイント  
■ 全体 -10ポイント

		n=	(%)	
全体		(2,069)	23.2	10.2
保有者 全体		(1,384)	25.0	10.5
性 年 代 別	男性計	(692)	27.7	9.8
	男性 30代	(173)	19.7	11.0
	男性 40代	(173)	22.0	8.1
	男性 50代	(173)	27.7	9.8
	男性 60代	(173)	41.6	10.4
	女性計	(692)	22.3	11.1
	女性 30代	(173)	13.3	10.4
	女性 40代	(173)	20.8	8.7
	女性 50代	(173)	28.3	13.3
	女性 60代	(173)	26.6	12.1
職 業 別	有職者	(784)	23.7	10.5
	専業主婦	(294)	22.8	11.6
	パート・アルバイト	(114)	31.6	12.3
	その他	(192)	29.7	7.8
非保有者 全体		(685)	19.7	9.6
性 年 代 別	男性計	(379)	21.9	9.0
	男性 30代	(86)	15.1	7.0
	男性 40代	(86)	10.5	15.1
	男性 50代	(86)	20.9	8.1
	男性 60代	(121)	35.5	6.6
	女性計	(306)	17.0	10.5
	女性 30代	(86)	12.8	7.0
	女性 40代	(86)	15.1	9.3
	女性 50代	(86)	25.6	11.6
	女性 60代	(48)	12.5	16.7
職 業 別	有職者	(383)	17.8	10.7
	専業主婦	(129)	20.9	10.1
	パート・アルバイト	(75)	12.0	10.7
	その他	(98)	31.6	4.1

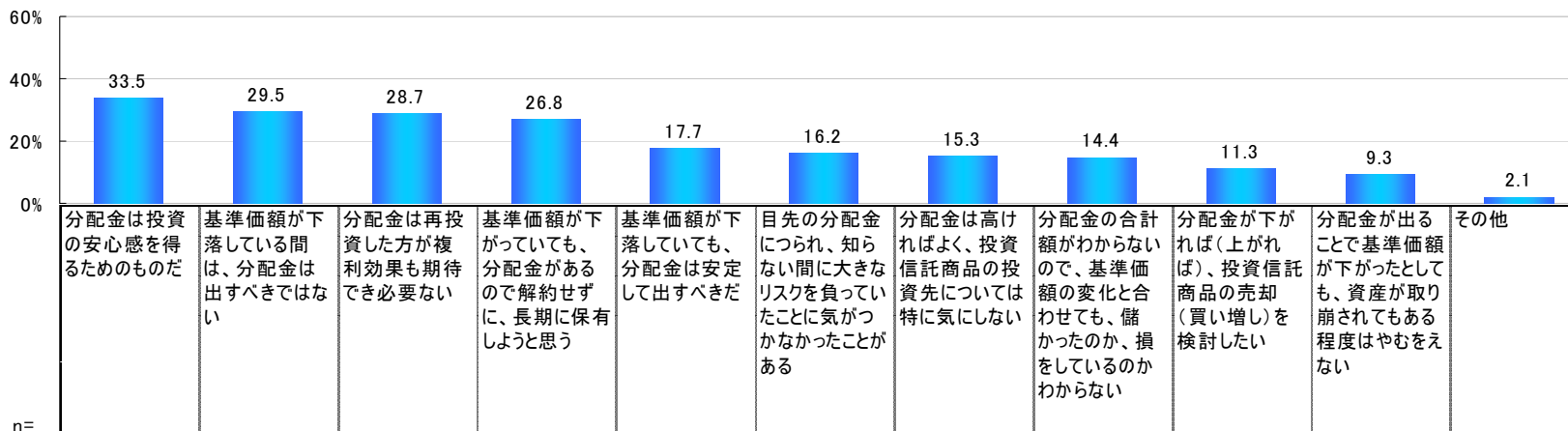


## 分配金に対する意識

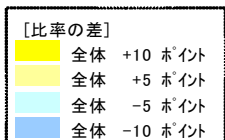
(本調査: 投資信託保有者/分配金をもらっている者が回答(n=1,188))

■ 分配金に対する意識を聞いたところ、「投資の安心感」として心理的な効用を得ているようだ。もっとも、相場が調整局面では、意見が分かれており、「分配金は出すべきでない」とする向きもあれば、「分配金があるので、長期に保有できる」とする向きもある。その中で、分配金の高さに目を奪われ「知らない間に大きなリスクを負っている」との指摘も見られ、相場調整における投資信託の分配金に対する評価が多様化していることがうかがわれる。

分配金について、あなたはどのように感じていますか。



n=30以上の場合



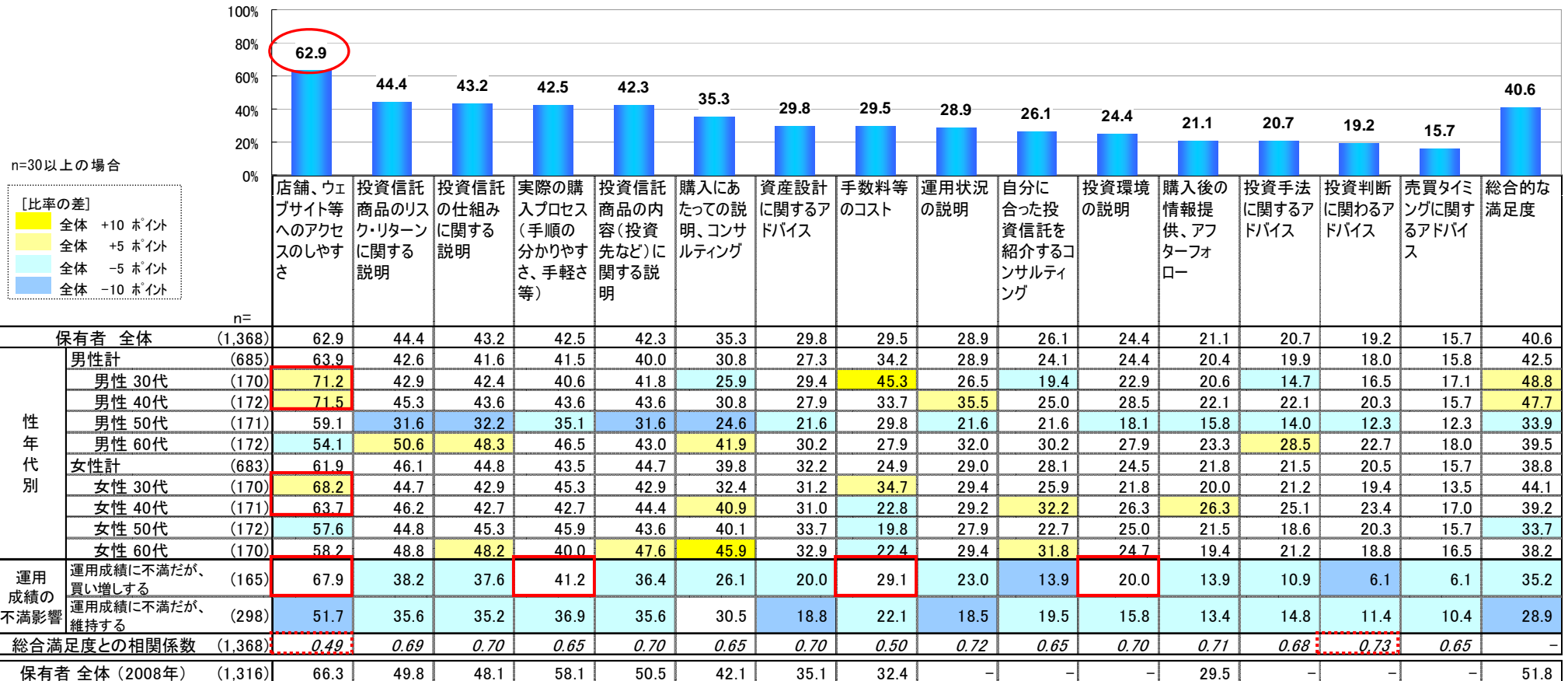
		n=	33.5	29.5	28.7	26.8	17.7	16.2	15.3	14.4	11.3	9.3	2.1
性年代別	保有者 全体	(1,188)	33.5	29.5	28.7	26.8	17.7	16.2	15.3	14.4	11.3	9.3	2.1
	男性計	(593)	31.9	30.9	36.1	21.8	17.7	12.1	17.5	10.5	11.0	9.8	2.0
	男性 30代	(145)	32.4	31.7	44.8	15.9	15.2	14.5	13.1	8.3	12.4	7.6	4.1
	男性 40代	(147)	20.4	38.1	39.5	19.0	10.9	6.1	14.3	16.3	12.2	10.9	2.0
	男性 50代	(147)	33.3	27.9	29.9	19.7	21.8	11.6	19.0	3.4	8.8	8.2	0.7
	男性 60代	(154)	40.9	26.0	30.5	31.8	22.7	16.2	23.4	13.6	10.4	12.3	1.3
	女性計	(595)	35.1	28.1	21.3	31.8	17.6	20.2	13.1	18.3	11.6	8.9	2.2
	女性 30代	(142)	29.6	31.7	21.8	27.5	16.2	17.6	12.7	16.9	14.8	7.0	3.5
	女性 40代	(140)	30.0	30.0	27.9	29.3	16.4	17.9	16.4	19.3	9.3	7.9	2.1
女性 50代	(154)	40.9	27.9	19.5	34.4	17.5	20.8	11.0	20.8	11.0	10.4	1.3	
女性 60代	(159)	39.0	23.3	17.0	35.2	20.1	23.9	12.6	16.4	11.3	10.1	1.9	
職業別	有職者	(662)	30.8	30.8	34.1	21.1	15.1	13.4	16.8	13.1	10.4	8.5	2.4
	専業主婦	(254)	36.6	28.7	20.9	38.2	19.3	19.7	11.8	17.7	13.0	11.0	1.2
	パート・アルバイト	(104)	36.5	28.8	25.0	24.0	20.2	26.0	8.7	17.3	11.5	4.8	1.9
	その他	(168)	37.5	25.6	21.4	33.3	23.8	15.5	19.0	12.5	11.9	13.1	2.4
分配金の必要性	必要(計)	(1,091)	35.9	27.5	25.3	29.1	19.2	16.8	16.6	14.5	12.2	10.0	1.7
	使うために必要だ	(150)	37.3	12.7	8.7	37.3	34.7	22.7	22.7	15.3	18.0	16.7	0.7
	利益確定のために必要だ	(660)	41.5	24.8	18.6	32.1	20.3	16.2	17.4	13.0	12.0	10.2	2.6
	運用状況を知る上で必要だ	(281)	22.1	41.6	49.8	17.4	8.2	14.9	11.4	17.4	9.6	6.0	0.4
	必要ない	(97)	6.2	51.5	67.0	1.0	1.0	9.3	1.0	13.4	1.0	2.1	6.2
税率の優遇措置	税率が20%なら必要ない	(675)	26.1	39.1	39.3	18.1	8.7	16.6	8.6	16.6	9.0	6.7	2.1
	税率が20%でも必要	(513)	43.3	16.8	14.8	38.2	29.4	15.6	24.2	11.5	14.2	12.9	2.1

# 販売会社に対する満足度

## 投信販売会社に対する満足度

(本調査: 投資信託保有者(販売会社がわかっている人)が回答 (n=1,368); 複数回答)

- 投資信託の販売会社に対する満足度(5段階評価のうち、「満足」「まあ満足」の合計)をみると、「店舗、ウェブサイト等へのアクセスのしやすさ」(63%)が最も高い。特に男女の30・40代で顕著。これは本調査がインターネット調査であることから、ネット系販売会社に対する評価が押し上げている面がある。
- また、「投資信託の運用成績に不満を持っているにもかかわらず、今後買い増しする」と回答している者を見ると、「店舗、ウェブサイト等へのアクセスのしやすさ」の満足度は投資信託保有者全体よりも5ポイントほど高い(68%)。その他には、「実際の購入プロセス」や「手数料等のコスト」、「投資環境の説明」が投資信託保有者全体とほぼ同率を示している。
- しかし、販売会社の総合満足度との相関係数をみると、この「店舗、ウェブサイト等へのアクセスのしやすさ」は最も低い。一方、相関係数が高いのは「投資判断に関わるアドバイス」「運用状況の説明」「アフターフォロー」であるが、満足度は2割台に留まっている。

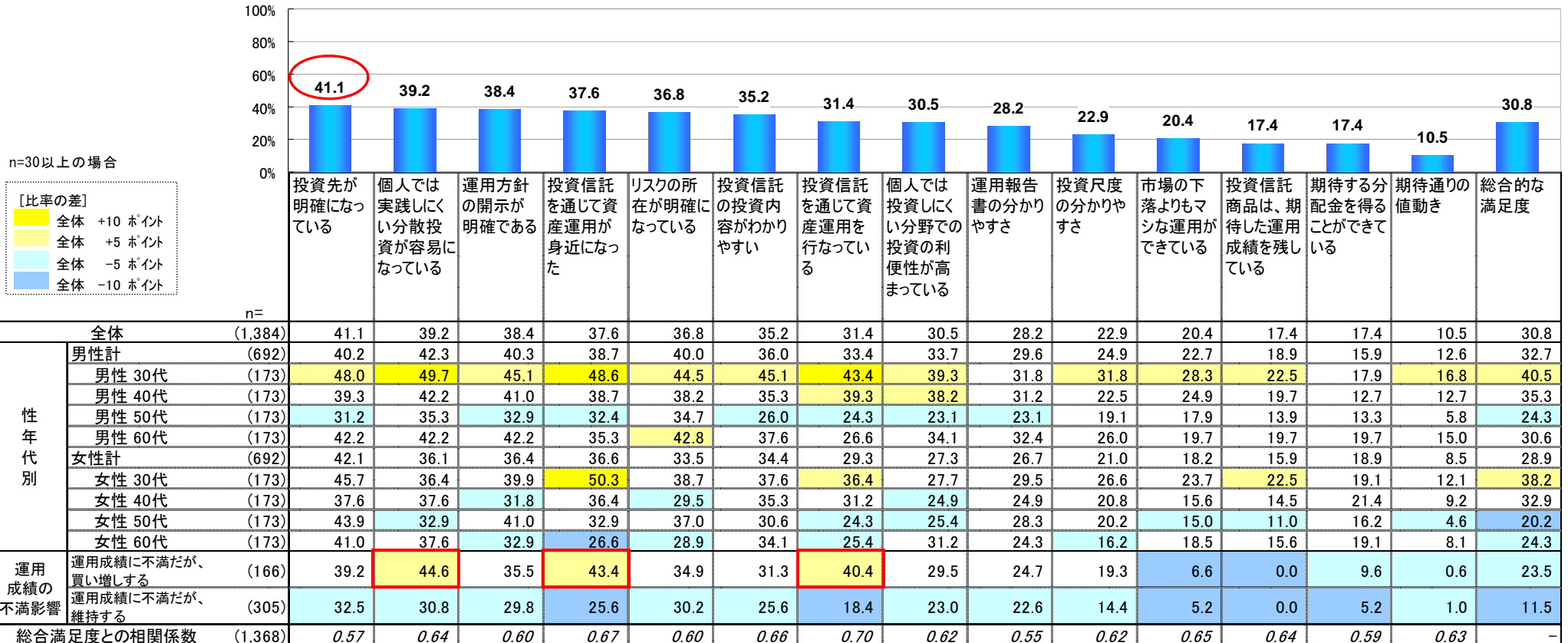




# 投資信託商品に対する満足度

## 投資信託商品に対する満足度 (本調査: 投資信託保有者が回答 (n=1,384); 複数回答)

- 投資信託商品に対する満足度(5段階評価のうち、「満足」「まあ満足」の合計)をみると、「投資先が明確になっている」(41%)が最も高い。特に男性の30代で高く示されているが、その他の項目においても満足度が他の年代より高い。また個人では投資できない分野での代行的投資の点に満足を得ている。しかし運用成績に対しては、満足しておらず、期待した結果を得られていない。
- また、「投資信託の運用成績に不満を持っているにも関わらず、今後買い増しする」と回答している者を見ると、特に分散投資が容易になったことや投資信託を通じた資産運用が親近感を感じて行われていることのスコアが高い。
- 各項目について、総合満足度との相関をみると、比較的高い項目として「投資信託を通じて資産運用を行っている」「資産運用が身近になった」との項目と関係性がみられる。「期待した運用成績を残している」「分配金」「値動き」に対しては、満足度が低いものの、総合満足度がそれよりも高い背景には、投資信託を通じて、資産運用を実践し、身近なものとしてできていることが背景に挙げられる。



# 退職金の受給・運用、金融市場の動きによる影響

## セカンドライフと資産運用

(本調査: 50・60代のみ回答)

- 退職金について受け取った、または受け取る予定のある者は、約7割。
- 今後の退職金の運用で最も支持されている意見(下図)は、「リスクを抑えつつ、低リスクの金融商品で運用したい」(39%)であるが、投資信託の保有・非保有別でみると、保有者はある程度リスクを覚悟をしながら運用したい態度が見受けられる。
- 2008年来の金融市場の動きによる影響(右下図)をみると、「何となく今後の生活に不安を感じている」が約半数を占める。しかし、投資信託の保有・非保有別でみると、保有者は「そのうち市場も回復すると思うので、しばらく我慢すればよい」という冷静な考えを持っている傾向がみられる。

■ 既に受け取った ■ まだ受け取っていない ■ 退職金はない／予定はない

